

# 私学助成署名推進ニュース

全国私立学校教職員組合連合  
No.4 2019年7月10日(水)

年収590万円未満世帯一律「私立高校の無償化」の実現を迫る!!

## 7.5. 院内集会・中央要請行動

2019年7月5日(金)東京千代田区永田町の衆議院第一議員会館大会議室は、全国25都道府県の高校生、父母、教職員で満杯となりました。前日公示された参議院選挙戦が始まった中ではありましたが、3政党4名の本人議員が参加する中で「学費の公私間格差・自治体間格差是正について考える院内集会」が開催されました。

### 25都道府県245名の参加者が、46名の国会議員(本人4名、代理42名)に、学費負担解消を強く訴えた集会

開会の午前11時には、全国から父母12都道府県144名、高校生2都県17名、教職員25都道府県84名の合計245名が、衆議院第1議員会館大会議室を埋めつくしました。そこへ参議院選挙公示翌日ながら5政党+無所属46名の国会議員(代理42名含む)が駆けつけてくださいました。議員・代理の方々に、「国の就学支援金制度2020年度拡充」の情報を元に「私学の無償化」について熱く訴える集会となりました。

本人出席議員のみなさん				代理出席議員のみなさん				代理出席議員のみなさん						
お名前	選出	院	会	No	お名前	選出	院	会	No	お名前	選出	院	会	
☆ 松田功議員	比例東海	衆	立	1	高島修一議員	新潟	衆	自	26	大西健介議員	愛知	衆	民	
☆ 畑野君枝議員	比例南関東	衆	共	2	左藤章議員	大阪	衆	自	27	矢上雅義議員	比例九州	衆	立	
奥野総一郎議員	比例南関東	衆	民	3	青山周平議員	比例東海	衆	自	☆ 28	辻元清美議員	大阪	衆	立	
吉田統彦議員	比例東海	衆	立	4	江渡聡徳議員	比例東北	衆	自	29	大塚耕平議員	愛知	参	民	
※ 受付ご到着順で表記 ※ 本人出席=4名 ※ 代理出席=42名 ※ メッセージ=5名 議員関係 46名の参加				5	田中良生議員	埼玉	衆	自	30	熊田裕通議員	愛知	衆	自	
				6	坂本哲志議員	熊本	衆	自	31	加藤鮎子議員	山形	衆	自	
				7	小川淳也議員	比例四国	衆	無	32	階猛議員	岩手	衆	無	
				8	小鍬隆史議員	滋賀	参	自	33	木原稔議員	熊本	衆	自	
				9	笠浩史議員	神奈川	衆	無	☆ 34	鷲尾英一郎議員	新潟	衆	無	
				10	舟山康江議員	山形	参	無	35	吉川元議員	比例九州	衆	社	☆
				11	佐藤公治議員	広島	衆	無	36	森山浩行議員	比例近畿	衆	立	
				12	長尾秀樹議員	比例近畿	衆	立	37	神谷昇議員	比例近畿	衆	自	
				13	池田佳隆議員	比例東海	衆	自	☆ 38	津島淳議員	青森	衆	自	
				14	重徳和彦議員	愛知	衆	無	39	鈴木馨祐議員	神奈川	衆	自	
15	三宅伸吾議員	香川	参	自	40	青山大人議員	比例北関東	衆	民					
16	根本幸典議員	愛知	衆	自	☆ 41	古川元久議員	愛知	衆	民					
17	大野敬太郎議員	香川	衆	自	42	黄川田仁志議員	埼玉	衆	自					
18	工藤彰三議員	愛知	衆	自	メッセージ 近藤昭一議員 愛知 衆 立 斎藤嘉隆議員 愛知 参 無 本村伸子議員 愛知 衆 共 吉良よし子議員 東京 参 共 木戸口英司議員 岩手 参 民 ご本人代理両参加 松田功議員 両 畑野君枝議員 両									
19	斎藤嘉隆議員	愛知	参	無										
20	神谷裕議員	比例北海道	衆	立										
21	西岡秀子議員	長崎	衆	民										
22	伊藤涉議員	比例東海	衆	公										
23	玉木雄一郎議員	香川	衆	民										
24	横光克彦議員	比例九州	衆	立										
25	尾辻かな子議員	比例近畿	衆	立										
会派数 5 本 代 計 衆 4 21 25 参 0 4 4 4 25 29														

☆...衆議院文部科学委員

○...参議院文教科学議員



堀江代表代行 永島共同代表

**共同代表あいさつ：**集会冒頭、全国私学助成をすすめる会共同代表代行堀江さんが「私学の無償化」が夢ではなくなってきた。どの学校に通っている子どもも夢を叶えるために学ぶことができるよう、無償化を実現してほしい。」とあいさつされました。つづいて永島共同代表から、あいさつとともに「就学支援金制度と各県学費減免制度の拡充で私立高校生が増加した。また、「経済的理由による中退調査」でも退学する生徒は減ってきた。しかし、親や生徒のリクエストに応えていない自治体もある。施設設備費の授業料への移行措置に消極的な県もある。国の拡充を確実に子どもたちに還元させるかどうかは、この夏に施設設備費をどうしていくかのわたしたちの動きにかかっている。」と今年の運動の基調が報告されました。

**本人議員ごあいさつ：**3政党4名の本人議員のごあいさつ(大意)：松田功議員…民主党時代に就学支援金制度を創設したが、所得制限は設けていなかった。お金の心配なく学べるように超党派で頑張っていく。畑野君枝議員…年収590万円未満世帯まで授業料を無償化すると文科省が発表したが、この所得制限をはずし施設費も無償を我が党は実現させる。奥野総一郎議員…千葉の方々が要望書を持ってこられたので集会に参加した。学費を無償にすることが日本の未来につながると思っている。吉田統彦議員…全国から多くの方が集まってくださったことに、敬意を表す。子どもたちが経済的な心配なく学べるように頑張る。



松田功議員 畑野君枝議員 奥野総一郎議員 吉田統彦議員



発言する大東学園生徒会のお二人

**高校生の発言が会場に希望を：**今回の集会では、多くの参加者に学費負担についての思い、今年の運動への意気込みを語っていただきました。国会議員さんもいる前で、大東学園生徒会を代表し、お二人が発言してくださいました。「大東学園に進学が決まって最初に頭に浮かんだのは学費の事で妹の高校受験の選択肢を狭めてしまったこと。申し訳なく思った。高校生の未来のために力を貸してください。」「人権」という授業で、奨学金の返済ができずに自己破産する青年のを知り、大学の奨学金のことも取り組む必要があると思っている。大東学園生徒会としては、私学助成と署名運動について知る「私学ウィーク」開催を計画している。今年目標は4万筆。母校を訪問して、中学生や先生に私学、私学助成について説明しようと考えている。

**各県の父母・教職員の「決意」と「思い」が繋がったリレートーク：**愛知・神奈川・兵庫・北海道・青森・岩手・新潟・千葉・滋賀・岡山・熊本・東京のみなさんからの発言がつかまりました。神奈川、兵庫の父母からは私学に通わせて子どもさんの成長と経済的負担への思いが語られました。北海道の父母、岩手、新潟、熊本の教職員からは、2020年の拡充では道県にネコババはさせない決意が、千葉、滋賀の教職員からはブロック内で県単独制度が遅れを取っていることに触れつつ、多くの声を集めて県単独拡充実現の決意が語られました。東京から参加された校長さんからは、先生方が笑顔で子どもに向き合うためにも経常費助成の拡充も重要であることが語られました。昨年310万筆を集めた愛知の父母からは、サマセミなどの教育づくりの取り組みとともに、今年も県向け300万筆を目標に据えたことが力強く報告されました。